

# 鳥取北ロータリークラブ Rotary

THE ROTARY CLUB OF TOTTORI NORTH 2023 ▶ 2024

例会場: ホテルモナーク鳥取 例会日: 火曜日12:30~13:30

国際ロータリーのテーマ



● 会長……入江 容子 ● 副会長……………水野 治郎

● 幹事……田村 博信 ● 会計……………植田 哲朗

● SAA……米田由起枝 ● 広報・プログラム委員長…田中 英剛

世界に希望を生み出そう

■ 創立: 昭和36年2月23日 ■ 事務所: 鳥取市扇町22-1 山陰合同銀行鳥取駅南ビル

Tel.24-3536 Fax.29-6741

E-mail kitarc@infosakyu.ne.jp http://www.infosakyu.ne.jp/kitarc/

2023年10月24日(火)

第3002回

本日の例会

- ◆ ロータリーソング  
四つのテストの歌
- ◆ 卓話  
道上正規さん
- ◆ 献立  
米山ミール

2023年10月31日(火)

第3003回

次回の例会

- ◆ ロータリーソング  
鳥取北RCの歌
- ◆ 委員会事項  
入会記念日御祝
- ◆ 献立  
秋の味覚弁当
- ◆ 卓話  
地区大会の報告

## 先週の例会

2023年10月17日(火)

### 会長挨拶

本日は3001回の例会日です。

今まで積み重ねられてきた鳥取北ロータリークラブの歴史の重みを受け止め、新たな第一歩を皆様と共に作り歩んでいきたいと思っております。

最近テレビの報道番組では、ロシアとウクライナの戦いから、パレスチナのハマスとイスラエルとの戦いが始まり激化している様子が報道されています。そうして多くの人々が逃げまどう姿が映し出されており、中東の複雑さが再び表面化して来た感じがします。

今年度RI会長は、「平和の推進を提唱、それは世界に希望を生み出そう。そのための重要な方法は平和に重点的に取り組むことだ」と述べています。私たちは先人たちが人道支援を最優先に懸命な支援活動を行ってきたことを学んできました。

ロータリーでは平和は受動的な夢ではなく懸命な活動と築かれた信頼。そして難しいが対話で生まれてくるのだと述べています。平和は粘り強く勇敢に実践しなければならないとも述べています。

複雑な今の世界情勢の中、平和が一日でも早く訪れることを願わずにはおられません。

### 幹事報告 (谷口副幹事代行)

#### 1 到着文書

1) 石倉ガバナー事務所より、地区大会当日スケジュールと注意事項について

10/22 (日) 午前7:45鳥取駅南富国生命ビル前集合 バス14名、車2名

2) 米山記念奨学会より、ハイライトよねやま283号

- ・日本語スピーチコンテストに現役奨学生が入賞
- ・ウクライナ出身米山学友による講演会など

#### 2 例会変更・メイクアップ情報

米子中央RC 11/16と11/23 (水) 休会

11/30 夜間例会 ビジター受付  
定刻定例会場

倉吉東RC 11/2 (木) 夜間例会 ビジター  
受付 定刻定例会場

#### 3 その他連絡事項

- ・R財団里山整備事業は11/22 (水) 予定
- ・ガバナー月信とロータリーの友10月号配布
- ・本日10~12月会費請求ボックスへ
- ・地区大会はメーカーキャップになります。お休みの方は事前に事務局まで。

#### 委員会事項

##### ◎出席率報告

10月17日 会員47名中 出席29名 出席率 61.70%

◎社会奉仕委員会千金委員長より、10/28 (土) 砂丘除草活動の出欠がまだの方がいます。趣旨をご理解いただき、たくさんのご参加をお願いします。

## メイクアップ

9/26国際奉仕委員会IDM 道上正規さん  
谷口昭二さん 寺本光孝さん

## スマイル報告

(本日9,000円 累計 258,500円 前回 249,500円)

入江容子さん 鳥取市教育委員会事務局文化財課の岡垣頼和さん、本日の卓話楽しみにしております。

植田哲朗さん 鳥取市文化財課の岡垣頼和様、卓話をよろしくお願ひします。楽しみにしております。

田中英剛さん ①今日、十数年ぶりに寺宝の涅槃図をかけました。4メートルもあると大変でした。②昼から子供の5歳のくぎりで写真撮影をします。

笹野眞紀さん ①先日の夜間例会二次会お世話になりました。②例会見学の谷川ひろみさん、よろしくお願ひします。

森下泰年さん 谷川さん、例会見学へようこそお越し頂きました。静岡県の出身ということで私も11年間いましたのでご縁を感じます。因みに妻も静岡県人です。

※2大御祝(本日0円 累計44,000円 前回44,000円)

## 卓話

ふるさとに誇りを!

鳥取城「中ノ御門渡 櫓門」がもたらす兆し

鳥取市教育委員会文化財課

主任(建築技師)岡垣頼和 氏

鳥取城跡は、戦国時代の山城を起源とし、江戸時代には全国約300藩の中で上位12番目の規模を誇る鳥取藩32万石の居城でした。このことから、鳥取市は往時の鳥取城の姿をわかりやすく伝えるため、平成17年度に保存整備基本計画を策定。現在は、その第一段階として城のメインルートである「大手登城路」の復元を進めています。2018年に「擬宝珠橋」が、2021年には「中ノ御門表門」が竣工し、現在は「中ノ御門渡櫓門」の復元工事を行っています。今後は、城内最大級の城門「太鼓御門」へ現場を移し、ゆくゆくは整備計画第二段階に明示する、鳥取城天守に位置付けられていた「二ノ



丸三階櫓」の復元を目指しています。

丸三階櫓」の復元を目指しています。

鳥取城の大手門にあたる「中ノ御門」。今に伝わる形で鳥取城を整備したのは、姫路城を築いた池田輝政の孫、光政でした。1621年の鳥取城築城整備には、姫路城大天守に携わった職人たちが関わったと言われており、中ノ御門はこの時に建築されたと考えられています。大手門は城の玄関口にあたることから「城の顔」とも言われており、防御の役割だけではなく、大名の石高(規模)に則した「格式」を備えます。このことから、大手門は城ごとに特徴を持ち、同じものは一つとして存在しません。明治時代初期に撮影された鳥取城大手登城路の古写真をみると、石垣の幅いっばいに表門を構え、両脇の土塀を城門の屋根まで立ち上げるなど、他の城に類をみない堅固かつ個性的な造りをしています。また、表門をくぐって右に折れた位置に写る渡櫓門は、城郭建築で一般的な入母屋屋根ではなく、櫓を連続して建築する際に用いる切妻屋根を呈していることから、中ノ御門には、さらなる櫓の築造計画があったことを想像させます。幕末においてなお築城を計画していたとするならば、鳥取城は全盛期の最中に新たな時代を迎えたことが推察でき、復元が進む中ノ御門の姿に、かつて大藩であった鳥取城の栄華が偲べれます。

1階を城門、2階に櫓を備えた中ノ御門渡櫓門は、全高9.2メートル、全幅10.4メートル、奥行4.5メートルにもおよび、本プロジェクトでは初の室内空間を持った本格的な城郭建築の復元になります。今回、2階建ての重層櫓の復元が叶ったことは非常に大きな成果で、同じく室内空間を持つ重層櫓「二ノ丸三階櫓」の復元を射程に捉えたことになります。擬宝珠橋、表門、渡櫓門の復元工事を経て、徐々に城郭建築の復元に関する技術的知見を蓄積しつつあることから、長く夢とされてきた二ノ丸三階櫓の復元がようやく現実味を帯びてきました。引き続き鳥取城復元プロジェクトの応援をよろしくお願いいたします。



(担当 植田哲朗)